

平成26年度 総合防災対策特別委員会

行政視察報告書

期日 平成26年7月28～30日

視察先 静岡県湖西市、吉田町
静岡県地震防災センター(静岡市)

視察者 柏田公和、富井寿一、日高和広、木田吉信
三樹喜久代、鈴木富士男、黒木高広

行政視察の目的

静岡県 湖西市

災害発生時の議会・議員の役割・対応について、災害時行動マニュアルを制定している自治体を視察し、その必要性や制定によって得られる効果、市の防災対策全般について研修するもの。

静岡県榛原郡吉田町

全国に先駆けて横断歩道橋を兼ねた「歩道 橋型津波避難タワー」を整備した自治体を視察し、津波災害から住民を安全に避難させる行政の取り組み等について研修するもの。

静岡県地震防災センター

地震防災に関する知識と対策について地震の揺れ等を体験するなかで防災面の基礎知識を学ぶ機会とする。



湖西市役所

静岡県湖西市

人口 61,129人

面積 86,65 K m² (日向市の約1/4)

財政力指数(H24) 0.98 (日向市 0.47)



湖西市議会災害時行動マニュアル

策定のきっかけは…

東日本大震災で被災した自治体を視察し、議会・議員の災害発生時の行動を検証するなかで、行動の柱となる「議会・議員の災害時の行動マニュアル」が必要と認識。

素地として考えられるのは、過去に幾度も津波による災害を受けた経緯がある。(昭和19年発生 of 東南地震では湖西地区一帯で200棟以上の全半壊を記録している。)

静岡県内23市議会中、11市において防災マニュアル等の策定が済んでいる。(平成23年10月時点)



災害時の議会及び議員の行動についての取り決めは必要！

湖西市議会災害時行動マニュアル

- 目的** 災害後、いつでも議会を開催できる状況を目指す。
市の災害対策本部への負担軽減。
- 内容** 議員自身の安全確保(家具転倒防止、3日分の水・食料確保など)
安全な場所への避難(高台への避難)
議長を情報の窓口。議員内で情報連絡を図る。
(議員は、地元以外の地域の災害情報などの収集は行わない。)
- 特色** 各議員は、直接災害対策本部への問い合わせはしない。
議員は、被災地及び避難所等における自主防災会の活動を補助する。(災害対策本部との連携はしない。)
- 課題** すべての訓練を行っていないためマニュアルの検証が出来ていない。

湖西市議会災害時行動マニュアル

各委員の意見

行動マニュアル策定の意義が、市民に知られてないのではないか。

訓練が難しい部分があるからこそ、議員の災害時の周知は必要ではないか。

同じ様なマニュアルは日向市でも整備すべき。

マニュアルの検証が大事だ。

基本的には素晴らしい行動マニュアルであり日向市議会も見習うべきでは。

市民から選ばれた議員が、議会より議員活動が束縛されている様で、市民に理解されるか疑問である。

湖西市の防災対策

湖西市の防災対策が目指すもの
一人たりとも市民の命を失うこと
のないようにする。

3つを守る

地震から命を守る。
津波から命を守る。
被災後の生活を守る。

湖西市の防災対策

これまでは

非常用電源切替装置設置事業(平成24年)
避難所となる教育施設に発電機による電源切替装置を設置し、体育館の一部と事務室等必要最低限の電源を確保。
(市内12箇所)

衛星携帯電話導入(平成24年)
災害時の自主防災会との通信手段を現状のMCA無線から、衛星携帯電話に切り替えて確実な無線交信を行う。
(市本部用6台、自主防災会用60台)

その他、IP告知放送システム整備、防災ほっとメールとJアラートの連携、海面監視用ウェブカメラ設置、津波避難路整備、津浪浸水深路面標示、津浪避難経路路面標示などを実施。

湖西市の防災対策

これからは

ホーンアレイスピーカーの整備

同報無線設備の耐震化や音声品質の向上を行うもので、次世代型防災スピーカー(ホーンアレイ)は、4つのスピーカーを連動させこれまでのスピーカーの2倍以上の音達性能がある。

(平成25年までに7箇所整備し、26年度で5箇所整備する。)

マウント(命山)の設置

津波避難施設空白域に該当する地域では、マウント(命山)の設置場所を選定し設置を検討。



湖西市の防災対策

各委員の意見

「避難行動基準」を設定して避難場所のセッティングが行われていることは参考になる。

市の対応が住民・企業という区切りではなく一つとして自然に取り組んでいたのが印象的だった。

10分～15分で到着できる避難場所を140箇所指定していることに驚き、日向市の更なる整備推進の必要性を強く感じた。

防災面での力の入れ方が違う。県の防災専門家を理事として迎え入れ危機管理課のトップとして配置。危機管理課が防災対策のプロ集団化されていた。

全体的な感想として、地域面積が狭く、財政的にも恵まれ、過去の災害を生かした能動的な湖西市独自の地震津波対策を勉強することが出来た事は意義深い。

静岡県吉田町

人口 29,811人

面積 20.84 Km² (日向市の約1/16)

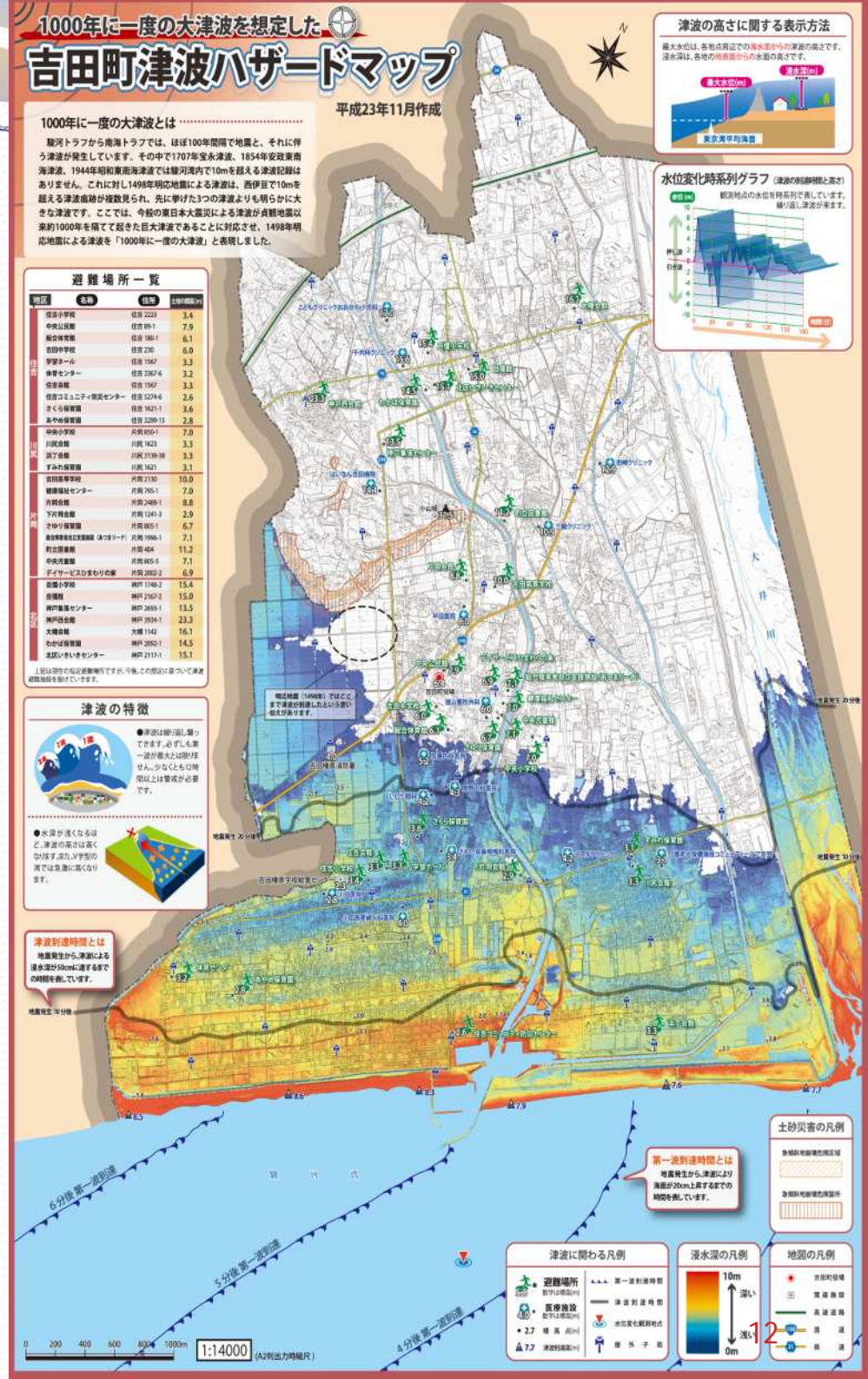
財政力指数(H24) 0.96 (日向市 0.47)



吉田町の防災対策

【吉田町の津波予想】

- ・津波高(最大)
町想定では **8.6m**
- ・南海トラフ巨大地震
- ・県第4次地震被害想定
共に、最大 **9m** の予想



吉田町の防災対策

【津波・防災まちづくりの推進】

津波浸水シュミレーションの結果

- 1 津波高最高8.6m、津波到達時間は約5分
- 2 吉田町の面積約40%、人口約17,000人が浸水

対策として

- 1 命を守る対策
→ 発生後、ただちに避難
- 2 財産、生産活動を守る対策
→ 被害を最小限にとどめる
- 3 災害時の生活支援対策
→ 災害時の備え

内容として

防災情報の提供
避難計画の策定

防波堤、堤防の嵩上げ
各家庭での安全対策

仮設住宅用地の確保
避難路の整備

吉田町の防災対策

【津波避難計画の策定 H24.3月策定】

避難対象地域は、現時点においては浸水予想地域と同様とする。

避難困難地域の人口から考えて、計画から3ヶ年以内に、避難困難地域に15基程度の津波避難タワーの整備を予定

津波避難困難地域の住民等を対象とした一時避難のための津波避難ビルを指定する。

避難路は、安全に最も短時間で到達できる経路で、町が主要道路を対象に指定する。

避難に際して自動車等を利用することは、円滑な避難ができないおそれがあることから、避難方法は原則として徒歩によるものとする。

吉田町の防災対策

【津波避難タワービル: K地区】



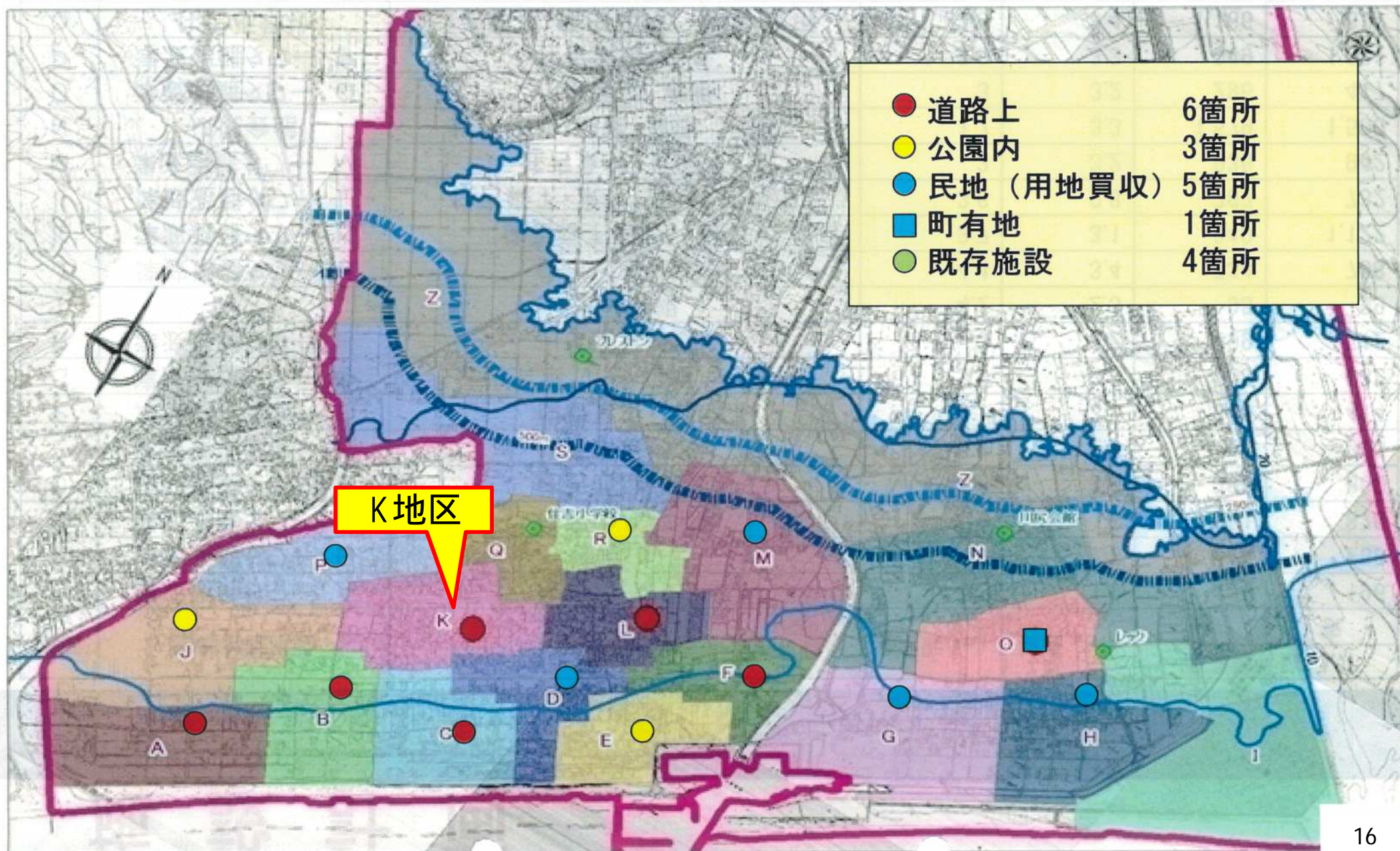
- ・延面積 628㎡
- ・収容人数 1,200人
- ・工事費 約4.5億円

- ・想定浸水深 3.7m
- ・高さ 6m
- ・避難ステージ 30m×22m

津波避難タワー—建設場所(街区)

◆H25.9.23 津波避難タワー(1期工事)完成式 ▶太田国土交通大臣出席

◆H26.3.30 津波避難タワー(命を守る対策)完成式典 ▶古屋内閣府特命担当大臣(防災)出席



吉田町の防災対策

【道路上の津波避難タワーの法的位置付け】

- ・ 町道上には横断歩道橋と津波避難施設の**兼用工作物**として町が設置
- ・ 県道上には道路占用許可を得て町が設置
道路法施行令の一部改正(H25.4.1施行)
→ 道路の占用許可対象物件として津波避難施設が追加

【津波避難タワーの構造性能は…】

- ・ **大津波や大規模地震**が同時に発生しても**壊れない安全な構造**である。
 - 津波と地震が同時に発生しても、各部材が弾性領域内に収まる設計。
 - 液状化に対応した設計。(K地区の場合、基礎杭33m×60本)
 - 階段の幅員については、避難シミュレーションの結果をもとに決めている。

吉田町の防災対策

津波防災対策を最重点課題と位置付け
『津波防災まちづくり』を強力に推進！

これまでは

- ・ 津波避難タワーの整備(全15基完成)
- ・ 防災拠点施設・設備・資機材の整備
- ・ 防災公園の整備
- ・ 防災機能を兼ねた保育園の整備
- ・ 防災行政ラジオの無償配布
- ・ 防災メール配信システムの構築

これからは

- ・ 海岸防潮堤・河川堤防嵩上げの要望
- ・ 「津波防災まちづくり」を強化に推進するためのソフト・ハード両面にわたる地震・津波防災(減災)対策
- ・ 「ジュニア防災士養成講座」の実施



【防災機能を兼ねた保育園の整備】

○すみれ保育園、子ども発達支援事業所

→防災機能を兼ねた保育園で、災害発生時には広域避難地及び仮設住宅建設地として活用できる。



備蓄倉庫



救護室

吉田町の防災対策

各委員の意見

「命を守る」、「財産・生産活動を守る」、「被害者の生活対策」を重点に津波・防災まちづくりを推進する意気込みが違う。

住民の防災意識の高さに驚いた。

避難タワーは、住民にとって安心感はあるので必要な設備なのかもしれないが、予算規模が大きいので考える必要性はある。

防災面に関しては先進地域の町であった。

歩道橋型避難タワーは、従来あった歩道橋が作り直されたものではなく、新たな地に整備されていた。あくまでも歩道橋としての活用は実状にあっていない。豊かな財政で整備が成り立っていると感じた。

大切なのは「やる気の問題」だ。全国に例がないことでも「やってみよう」という意気込みが、後で大きな形で帰ってくる典型的な事例。町独自の津波防災シュミレーションの実施がここまでの成果を上げていると感じた。

静岡県地震防災センター



全景



消火体験コーナー



地震体験コーナー



耐震コーナー

静岡県 地震防災センター



液状化実験装置



エントランス



津波シアター



津波実験装置

静岡県 地震防災センター

各委員の意見

津波災害時の考え方(津波にどう対処するかが大事なことでなく、地震の揺れにどう対処するかだ)は、勉強になった。

震度6の揺れを体験できる「地震コーナー」では、想像以上の揺れで何も出来ないと感じた。

防災関係者の啓発活動の拠点として役割を果たす充実した内容であった。

県民の防災意識の高さが伺える施設である。

震度6の揺れを体験したが、座っていても耐えられない揺れには驚きであった。色々と説明を聞く中で、我々も津波に対しては、考え方をもう一度整理する必要があると感じた。

市民の地震津波防災意識の啓発の為に、庁舎建設時に地震体験コーナー、津波シアター等の設置検討もお願いしたい。



現存する唯一の関所跡:新居関所(湖西市)



吉田町役場



湖西市役所

